

第6回生駒市立病院管理運営協議会会議録

- 日 時 平成29年7月20日（木）午後8時00分から午後9時50分
- 場 所 生駒市立病院7階 講堂・交流センター

■ 出席者

- (1) 会 員 小紫 雅史、今村 正敏、井上 雅智、山上 正仁、成田 研二、
前野 見依子、佐野 いづみ、藤堂 宏子、藤澤 清二、
堀川 英文
- (2) 事務局 【生駒市】山本副市長、古川特命監、影林福祉健康部長、増田福祉健康部次長、石田地域医療課長、後藤地域医療課長補佐、伊藤病院事業推進係長、奥野事業推進係主査
【指定管理者】漆間事務長、辻川看護部長、長谷川事務長補佐

- 欠席者 なし

- 傍聴者数 4名

- 会議の公開・非公開の別 公開

■ 会議の内容

1 開会

生駒市立病院管理運営協議会設置要綱第6条第3項の規定により、過半数の会員の出席で会議が成立していることを確認。配布資料等の確認。

(配布資料等)

第6回生駒市立病院管理運営協議会 次第

生駒市立病院管理運営協議会の会員名簿

[資料1] 平成28年度実施状況調査報告書(案)について

2 会員紹介

【事務局(市)】 本日の会議は、今期最初の会議となりますので、各会員様のご紹介をさせていただきます。

会員の任期は、生駒市立病院管理運営協議会設置要綱第4条第1項の規定により、「協議会への出席を依頼した日から、その日の属する年度の翌年度の末日まで」となっておりますので、今期の任期は、平成30年度末までとなります。

また、設置要綱第5条の規定により、会長は市長、副会長は市立病院の院長をもって充てることになっております。

それでは、会員名簿順にご紹介申し上げます。

会長の小紫市長でございます。

【小紫会長】 よろしくお願ひいたします。

【事務局(市)】 副会長の今村院長でございます。

【今村副会長】 よろしくお願ひいたします。

【事務局(市)】 一般社団法人奈良県病院協会理事で、近畿大学医学部奈良病院病院長 井上雅智様でございます。

【井上会員】 井上でございます。よろしくお願いいたします。

【事務局(市)】 一般社団法人生駒市医師会副会長 山上正仁様でございます。

【山上会員】 山上でございます。よろしくお願いいたします。

【事務局(市)】 公募市民として、成田研二様でございます。

【成田会員】 よろしくお願いします。

【事務局(市)】 同じく、前野見依子様でございます。

【前野会員】 よろしくお願いいたします。

【事務局(市)】 同じく、佐野いづみ様でございます。

【佐野会員】 よろしくお願いします。

【事務局(市)】 生駒市自治連合会会長 藤堂宏子様でございます。

【藤堂会員】 よろしくお願いいたします。

【事務局(市)】 東地区自治連合会会長 藤澤清二様でございます。

【藤澤会員】 よろしくお願いいたします。

【事務局(市)】 東生駒自治会長 堀川英文様でございます。

【堀川会員】 よろしくお願いします。

【事務局(市)】 以上の10名の方々でございます。

なお、佐野様と堀川様につきましては、今期から会員としてご参加いただいております。会員の皆様、どうぞよろしくお願いいたします。

3 会議内容の確認

【事務局(市)】 それでは、今任期最初の会議でもあり、新たに参加いただいた会員の方もおられますので、会議内容の確認として本協議会の役割、流れについて、簡単にご説明させていただきます。

まず、本協議会の役割につきましては生駒市立病院管理運営協議会設置要綱第2条におきまして、病院事業計画の実施状況に関する事、協定書に定める事業計画及び事業報告に関する事、市民等からの意見及び提案に関する事、その他管理運営に関する事と規定されております。

本日の会議におきましては、前任期中に構築されましたPDCAサイクルの2巡目

ということで、去る５月末に指定管理者から提出されました平成２８年度事業報告についての実施状況調査を行いまして、その結果についてご報告させていただき、会員の皆様方から課題の解決に向けた具体的な取組など、それぞれの立場や目線からさまざまなご意見、ご提案をいただきまして、平成３０年度の事業計画に反映させていただくということになります。

また、本協議会は基本的に年３回を予定しておりまして、次回の会議につきましては、平成２９年度の上半期の事業の中間報告についての実施状況調査を行った結果について、ご意見ご提案をいただきます。その後、３回目につきましては、前２回の報告に係る実施状況調査結果を盛り込みました平成３０年度事業計画について、皆様方のご意見をいただくという流れでございます。

４ 案件

【事務局(市)】 それでは、協議会設置要綱第６条の規定により、会長が議長となりますので、以後の進行は会長にお願いいたします。

【小紫会長】 それでは、ここからは私が会議を進行させていただきます。

生駒市立病院管理運営協議会の第２期目ということで、新たに会員になられた堀川様、佐野様、引続き参加いただく会員の皆様、改めてよろしくお願いを申し上げます。

この管理運営協議会は、平成２７年９月に第１回目が立ち上がりまして、はや６回目の開催ということになります。先ほど事務局から説明がありましたように、基本的には年３回の開催でございます。本年度は、今回が第１回目でございますが、前年度の事業計画についての報告ということになります。２回目は、１１月をめぐり、当該年度の上半期の中間報告について、会員の皆様からご意見をいただき、３回目は、年が明けて１月、２月頃になるかと思いますが、次年度の事業計画の案をお示ししてご意見をいただきます。この３回がワンセットということになっております。基本的には、この事業計画をつくっていく段階、そして前年度の事業計画をきちっとフォローアップしていただくということ、これがある意味一番大きなこの協議会の役割でございますが、それ以外にも病院の経営、運営の中で、特に市民目線に立って、こういうところを改善していくべきではないかというような具体的なご意見等もこの管理運営協議会の趣旨でございます。忌憚ないご意見を賜ればと思っております。

市立病院の運営も３年目を迎えてまして、患者数が増えてまいりました。当初の予定よりも早く、月単位での収支が黒字化されると聞いておりまして、まだこれで完全に軌道に乗ったということではないとは思いますが、状況としては非常にいい方向に動きつつあるというように考えてございます。このような流れをしっかりと確実に軌道に乗せていくためにも、この協議会で皆様にさまざまなご意見を賜りたいと思っております。

本日の会議につきましては、先ほど申し上げたように平成２８年度の事業計画の実施状況調査報告書（案）の部分について事務局から説明を受け、その取組の評価、そして今後の課題というところにつきまして、皆様方から項目別にご意見をいただくということでお願いをしたいと思います。活発な意見交換をさせていただくことをお願いして、私からの挨拶とさせていただきます。

９時半をめぐり会議を終えたいと思っておりますが、時間の許す限りしっかりと意見交換をさせていただきたいと思っております。どうぞ本日はよろしくお願いいたします。

それでは、次第の４の案件、「平成２８年度実施状況調査報告書（案）」につつまし

て事務局から一括して説明を受けた後、取組の評価・課題の部分について項目ごとに意見交換をしていきたいと思っております。

それでは、事務局から資料１に基づいて、それぞれ要点を押さえて簡潔にご説明をお願いします。

【事務局(市)】 それでは、説明の前に資料の見方についてご説明させていただきます。

横軸の一番左端に、病院事業計画を入れております。その右に、平成２８年度の事業計画、その右に平成２８年度の事業報告、その右に実施状況調査に基づく補足説明、一番右端になりますけど、取組の評価・課題（案）を記載しています。また、縦軸につきましては、平成２８年度事業計画の項目にあわせまして、１ページに診療科目、病床数。１枚めくっていただきまして、２ページ目に人員体制、３ページ目に患者数、また４ページ目からは病院事業計画の基本項目にあります新病院のコンセプトごとに区分けをして表示させていただいております。また、今年度の実施状況調査報告書（案）には、平成２７年度と比較した数値や専門的な用語の解説を入れさせていただきまして、また課題につきましてはゴシック文字で記載させていただきました。

まず、列中央の事業報告につきまして、指定管理者から説明いただきまして、その後、市から取組の評価・課題（案）のうち、ポイントとなるものを説明させていただきますので、よろしくお願いします。

【事務局(指定管理者)】 それでは、平成２８年度事業計画及び事業報告について、ご説明させていただきます。

それでは、まず１ページ目をご覧ください。

「診療科目」につきまして、事業計画は１４診療科目となっておりますが、平成２８年７月に血管外科を標榜いたしまして１５診療科となりました。また、平成２９年４月からは皮膚科を標榜し、現在１６診療科となっております。その他、患者様からの要望により、院内標榜といたしましてフットケア外来等の専門外来を開設し、診療の幅を広げました。

次に、「病床数」につきましては、平成２８年９月１日からＩＣＵを休止したため、実稼働可能病床数が計画の１５３床から１４６床に減少しております。これにつきましては、今年度中にフルオープンしたいと考えているところでございます。

それでは、２ページ目をご覧ください。

「人員体制」につきましては、３月末現在、常勤換算で合計１８３．９名であり、職種別では、医師が１８．９名、看護師が８５名で、平成２８年４月１日現在より少し減少している状況でございます。

続きまして、３ページをご覧ください。

「患者数」につきましては、計画の１日平均患者数が、入院９８．５名に対して実績が９４．２名、９５．６％の達成率となっております。

外来につきましては、計画が１３２．１名に対して実績が１２０．７名、９１．４％の達成率となっております。いずれも計画には至りませんでしたが、前年度と比較しまして、入院患者数で１日平均３６．３名、外来で１日平均４１名増加となっております。前年度から比べるとかなり多く推移している状況でございます。

続きまして、４ページをご覧ください。

「質の高い医療の提供」につきましては、手術件数が８７０件、整形外科、形成外科の手術件数の増加により前年度を上回っております。また、この他に腹腔鏡下手術

やダ・ヴィンチ手術の件数は伸びておりませんが、引き続き、患者への負担の少ない低侵襲手術に取り組んでいきます。ちなみに、分娩件数は97件でありまして、産科交流会を実施し、27家族に参加していただきました。

5ページに移らせていただきます。

「医療における安全管理に対する取組」につきましては、医療安全管理委員会を年に11回、医療安全カンファレンスは毎週1回、医療安全勉強会は2回開催するなど、インシデント・アクシデントに関する事例の分析などを行い、医療安全対策の強化に努めました。

また、院内感染対策として、院内感染対策委員会を毎月1回開催するとともに、ICT合同カンファレンスをグループの病院と合同で偶数月に行い、院内感染防止活動に取り組めました。

続きまして、6ページをご覧ください。

「地域完結型の医療提供体制の構築への寄与」につきましては、医療連携登録医は3月末現在で53施設、64名となっております。そのうち市内のクリニックが21施設、25名、これは市内のクリニックの24%に当たる数字となっております。また、協力医療機関連携施設は3月末現在で41施設となっております。

医療教育プログラムにつきましては、医療連携登録医をはじめ、市内の診療所の先生方を対象といたしまして症例検討会を含む病診連携懇話会を2月に開催するとともに、新生児蘇生法講習会専門（A）コースを6月と10月に開催しております。それとALSO、これは周産期における救急教育コースであります、11月に実施いたしております。また、救急搬送をスムーズに行い、収容所要時間も短縮するために市消防本部救急隊との意見交換会を2回実施しております。

続きまして、7ページをご覧ください。

「周辺の他の医療機関との連携」につきましては、医療機器のオープン利用として周辺の医療機関に、市立病院のMRIやCTなどを利用いただいております。ちなみにMRIは217件、CTは54件の実績となっております。

それと、紹介率は31.5%、逆紹介率は16%となっております。逆紹介率につきまして補足説明をさせていただきますと、紹介により入院された患者様を紹介元にお返した率は、67%となっております。地域の医療機関の当院の利用率は67.1%ということとなっております。

続きまして、8ページをご覧ください。

「救急医療の充実」につきましては、救急受入件数が1,769件、救急要請件数が2,113件でしたので、救急応需率は83.5%となっております。その他に、ウォークインで救急に来られた方は月平均159.3名を受け入れております。ウォークインというのは、救急車以外で当直時間帯に来られた患者のことを指しております。

引き続きまして、9ページをご覧ください。

「救急に対する人員体制」につきましては、医師が1名ないし2名当直いたしまして、専門医によるオンコール体制をとるとともに、外来看護師が2名から3名の他、放射線技師、検査技師、薬剤師、事務職員それぞれ1名の当直体制をとりました。

また、休日夜間の診療レベルは、CTやMRI、X線、放射線ですね。それと血液検査、全て対応可能となっております。加えまして、心臓カテーテル検査及び治療、内視鏡検査及び手術も対応可能な体制を整えております。

続きまして、10ページをご覧ください。

「小児医療の充実」につきましては、前年度に引き続き、常勤医師1名、非常勤医

師 5 名の人員体制であり、北和小児科二次輪番体制への参加は当院の診療体制の現状からいたしまして参加はできませんでした。今後、常勤医師が複数確保できれば、地域の状況を踏まえ、参加していきたいと考えております。

また、「災害時医療の確保」といたしましては、平成 28 年度は 6 月 9 日に消防訓練を実施、12 月 4 日に生駒市総合防災訓練に参加しました。また、当院の災害対策マニュアルを確定し、実効性のある災害時医療体制を整えました。

「予防医療の啓発」については、市民の疾病予防を目的といたしまして、医療講演会を月に 3 回から 4 回のペースで、年 40 回開催しております。

各種健診の実績は、前年度と比較しまして増加しております。

続きまして、11 ページをご覧ください。

「市民参加による運営」につきましては、本協議会の運営と、ご意見箱のご意見に対する対応を実施いたしました。具体的には、平成 28 年度の中間報告でも説明させていただきましたが、地下駐車場の料金を、1 時間まで無料としました。また、地下のエレベーター表示を掲示するとともに、接遇に関するご意見に関しましては朝礼で職員に周知した他、個別指導をそのつど行っております。

市民交流事業といたしましては、ロビーコンサートを開催し、入院患者様はもとより、市民の方にもご参加いただいております。

「環境に配慮した運営」につきましては、資源ごみの分別収集を行っており、病院内の電灯の 90% を LED 化し、エコオフィスの取組を行いました。

最後の 12 ページの収支ですが、医業収入と医業費用を差し引いた医業利益は、計画のマイナス 6 億 9,921 万 4,000 円に対しまして、マイナス 6 億 3,985 万 2,000 円でした。医業利益はマイナスではありますが、計画に対しましては、5,936 万 2,000 円プラスとなっております。

また、医業利益からその他の費用、医業外収益、医業外費用を差し引きしました経常利益につきましても、計画のマイナス 7 億 4,034 万 8,000 円に対しましてマイナス 6 億 3,971 万 7,000 円ということで、経常利益はマイナスではありますが、計画に対しては約 1 億円プラスとなっております。

今後も本協議会の会員の皆様のご意見を踏まえて、皆様と知恵を出し合いながら計画実現に向けて頑張っていきたいと考えている次第でございます。

以上で説明を終わらせていただきます。

【事務局(市)】 それでは引き続きまして、取組の評価・課題(案)のうち、ポイントとなるものを説明させていただきます。

まず、「診療科目」につきましては、平成 28 年 7 月に血管外科を標榜し、15 診療科となり、計画の 14 を上回っております。また専門外来も 4 つ増加しております。このことにより、課題については掲載しておりません。

次に、「病床数」の課題につきましては、平成 29 年度中の 210 床のフルオープンに向け、看護師を増員する必要があると考えております。また、HCU の稼働に向けては、当直可能な常勤医師、特に週末に勤務できる常勤医師の確保が課題としております。

続きまして、2 ページの「人員体制」の課題といたしましては、特に開院当初から配置できていない脳神経外科の常勤医師の確保が課題です。また、診療内容を充実するため、内科、消化器内科、外科、産婦人科、小児科において、複数の常勤医師の確保を課題としております。

続きまして、3 ページでございます。

「患者数」につきましては、前年度比較で、入院患者、外来患者とも増加してきておりますが、小児科においては入院患者が減少しており、当直可能な常勤医師の確保が、また消化器内科におきましては常勤医師1名体制となったことにより外来患者が減少しております。ともに常勤医師の確保が課題となっております。また、さらに患者の増加を図るには、診療科が増えたり、新たな常勤医師を確保したりした場合などは、その情報を市民や地域の医療機関へ積極的に情報発信することが課題と考えております。

4 ページをお願いいたします。

病院事業計画のコンセプト、「質の高い医療の提供」といたしましては、特に形成外科、整形外科の手術件数が増えてきていること。また、件数は増えていませんが、高齢者のがん治療では、開腹手術より低侵襲で早期の社会復帰が可能な腹腔鏡下手術や、前立腺がんの手術については先進のロボット手術（ダ・ヴィンチ手術）を実施し、患者の身体への負担が少ない手術に取り組んでいることが評価として挙げられます。また、患者満足度の向上に向けた取組におきまして、平成28年度は、当初2月に実施予定でありました患者アンケートが実施できず、翌年度にずれ込んだことを課題としております。

次に、5 ページの「医療における安全管理に対する取組」につきましては、医療安全管理に関する規程やマニュアルに基づきまして適正に運用され、医療安全管理に関する取組が実施されています。

続きまして、6 ページをご覧ください。

コンセプトの「地域完結型の医療体制構築への寄与」についての課題ですが、登録いただきました医療連携登録医、協力医療機関連携施設につきましては連携が強化されつつあると評価しておりますが、未実施の地域連携パスにつきましては、看護師、社会福祉士の確保を課題としております。また、開放型病床につきましては、今後、開業医からのニーズがあれば実施していくことでございます。

医療教育プログラムでは、さらにその効果を上げていくために、グループ病院として力を入れられているTCLSなどの救命講習会の実施の検討を課題とさせていただいています。

続きまして、7 ページの「周辺の他の医療機関との連携」です。

地域医療機関との病病連携、病診連携の推進や紹介患者の増を見込むためには医師会との連携というのは不可欠でありまして、現在継続審査となっておりますが、引き続き入会審査に対応していくことを挙げております。

また、前年度の実績と比較いたしまして、逆紹介率、地域医療機関の市立病院の利用率がともにプラスとなっておりますが低い状態であり、紹介率もまた低下している状況にあります。新たな診療科が増えたり、新たな常勤医師を確保したりした場合は、その内容を市民や地域医療機関に積極的に情報提供していくことが課題として挙げられております。また、地域の診療所から紹介を受けた患者の状況や診療結果の報告、退院時に紹介元へ戻す旨の報告・連絡の徹底に加えまして、紹介を受けた患者以外でも病院での治療を終え、症状が落ちついたら、その後の継続した観察を必要に応じて地域の診療所に逆紹介していく必要を課題として挙げさせていただいております。

また、地域医療連携の推進のためには、平成28年度は1名体制であったMSW（医療ソーシャルワーカー）を2名以上確保することを課題として挙げております。

さらに、地域共有型電子カルテネットワークシステムにつきましては、本年度から近畿大学医学部奈良病院におきまして、西和医療圏を対象としたICTを活用した医

療介護連携ネットワークシステムの構築に着手されておりますことから、その動向を勘案して検討していく必要があると考えております。

次に、8ページをご覧ください。

コンセプトの「救急医療の充実」におきましては補足説明欄を見ていただきますと、まず、市立病院の救急受入件数及び救急応需率ですが、ともに増加し、応需率につきましては83.5%となっております。また、救急の転送件数、転送率ともに減少傾向にありまして、本市の救急医療に貢献しているということであります。

また、補足説明の欄の下から3つ目の比較表にあります、市内救急搬送件数に占める市立病院の受入率は全時間帯で21.9%、その下の当直時間帯で23.8%ということで、前年度を上回っております。また、市内輪番病院のバックアップ状況も50%を超えておりまして、市内内科系二次、外科系一次二次輪番体制のバックアップの役割を果たしていると言えます。

また、表の上から6つ目、他院へ転送した割合でございますが、前年度に比べまして減少傾向にあります。これは、整形外科の常勤医師が確保できたこともありまして、骨折などの急患について対応ができつつあることも一つの要因であると考えております。なお、課題といたしましては、輪番病院のバックアップ病院としての役割を果たしているものの輪番体制に参加できていない状況でありまして、救急受け入れの実績を提示するなど輪番体制の参加に向けて、引き続き関係機関と協議していかなければならないと考えております。

次に、9ページをご覧ください。

「救急に対する人員体制」でございますが、24時間対応の救急受入体制が構築されまして、平成28年度から薬剤師の当直体制も構築できておりますが、病院事業計画に掲げる内科系、外科系の医師各1名の当直体制と、当直、オンコール体制に参加できる脳神経外科の常勤医師の確保が課題とされます。

10ページの小児医療の充実でございます。

この課題といたしましては、小児患者の救急対応、入院患者の受け入れにつきましては、常勤医師1名体制では医師の負担が大きく、当直が可能な常勤医師を複数人確保することが課題となっております。

また、予防医療の啓発についての課題につきましては、認知症やうつ病等、市民の要望が多いものの市立病院のスタッフで対応できない分野につきまして、院外の医療従事者による講演会を開催する取組が必要と考えております。また、市民健診については、検診数は増加しておりますが、胃がん、乳がん、子宮頸がん検診などが未実施でありまして、実施体制の整備とともに関係団体等との協議を行いまして、適宜、実施していくことが課題であるとしております。

そして、最後の11ページのコンセプト、「市民参加による運営」でございます。

今後も、市民にとって親しみを感じられる市立病院とするため、運営状況はもとより、市民交流事業など、より多数の市民に参加していただけるように広報活動を強化していく必要があると考えております。

以上でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

【小紫会長】 以上で説明が一通り終わりました。

それでは引き続きまして、先ほどの診療科目や病床数など、今説明がありました内容、取組の評価・課題というところについてのご意見や、こういう視点も追加で必要なのではないか、少し表現をこのようにすべきでないかなどご意見を賜ればと思います。

それでは順番に参りたいと思いますので、1 ページ目の「診療科目」の欄について、ご意見ございますか。

とりあえず、項目ごとに進め、最後にあらためてお聞きすることにします。「診療科目」についてはいかがですか。

ないようですので、「病床数」について、ご意見はございますか。

ご質問等でも結構かと思しますので、何かございましたらお願いします。

では、堀川会員。

【堀川会員】 今、診療科目が、当初は14で、平成28年度は15、平成29年度は皮膚科が増えて16とお伺いしました。今、医師が足りてないという状態ですね。そうしますと、診療科目を増やすというよりは、内容をもう少し濃くするというようなことを考えていただいたほうがいいのかと思います。

それともう1つは、病床数も現在は小児科で4床、平成30年3月31日は5床とか目標を上げておられていますが、実際どういった過程で上げられるのか。数字だけを上げておられるのか、こういうような過程でしていく、こういうようなことが必要だから上げるのですというようにところがわかりにくいので、お聞きしたいと思います。

【小紫会長】 ありがとうございます。非常に重要なポイントだと思います。

では、事務局からお願いします。

【事務局(指定管理者)】 診療科目につきましては、それぞれの診療科の充実を図るのは当然でございまして、それに対しましては医師の確保という形で進めております。診療科が増えておりますのは、市民の方からの要望や、投書で皮膚科を増やしてほしいとかありましたので、それに基づいて増やしています。また、担当する医師の確保ができましたので、充実とともに拡大していく状況であります。

病床数につきましては、当然、小児科も計画的には、最初たくさんの病床を考えていましたが、やはり小児科医師の確保というのが思うように進んでいません。小児科の病床を考えると1名の小児科の医師ではなかなか難しい部分もありますので、他の診療科が充実してきましたのでそちらのほうに割り当てておりますが、先ほどお話ししましたように、小児科の医師が複数確保できれば、当然、小児科の救急や入院も多数受け入れたいと思いますので、それに合わせて、また病床数も考えながら増やしていきたいと思います。

院内の中の病床数は146床と限られておりますので、その中で効率的な診療科の配分を考えているところでございます。

【小紫会長】 まず1つは血管外科と皮膚科、これは市民からのニーズとかそういうものがあって追加をされたということと、ここで標榜する科目が増えたということで、別の科の医師数が減るというようなことではございません。例えば他の診療科、内科とか産婦人科とか脳神経外科も課題ですけども、そういった科目につきましては、当然、当初の事業計画にあるような数字をきちっとこれからも確保していくことを目指すという前提でこういう追加の科目を標榜するというところでございます。こちらを標榜すると他の科の医師が減るとか、しわ寄せがいくとかそういうことではございませんので、ご理解をいただければと思います。

【堀川会員】 各科をもう少し充実させる、あるいは近くの病院で賄えるものを充実させる必要はなくて、実際難しい、市立病院でないとできないという科目を充実させるということは考えられないですかということを確認しておきたいのですが。

【小紫会長】 血管外科とか皮膚科もやはりニーズがあつたり、医師がいらっしゃったりするからというのもあって追加されているところはあるのですが、特に一番初めの事業計画に書いてあつた内科、消化器内科云々とあるこういう科目についても、しっかりと医師の確保はこれからやっていくということで、追加の診療科目が増えたから、何かそちらに悪影響が出るということではないとは思っています。絞り込めば医者をたくさんすぐ確保できるということでもないと思いますので、そこはしっかりと、引き続き医師の確保をしながら新しい医療ニーズにも応えていくということと思っています。

それでは、佐野会員お願いします。

【佐野会員】 お願いとお伺いしたいことがあります。

1つは、フルオープンで210床でしたが、今、146床ですね。あとの64床の内訳はどういうようにされるのかということをお聞きしたいです。

それと、NICU（新生児集中治療室）は、生駒市立病院にないですよ。大変だと思いますが、出産から子どもさんの成長までずっと診ていただける病院があると、とてもうれしいので、NICUも今後考えていただけたらと思っています。

【事務局(指定管理者)】 病床210床ですが、これは5階でまだあけていない病棟がありますので、そこのオープンという形で考えております。そこが52床で、あとまだあけていない部屋があり、そこを順次あけていってフルオープンという形で考えております。

病棟と言いましても、ここにHCUとICUが7床ありますので、これはできたら稼働したいと思っていますが、ICUの施設基準というのがありまして、常時、昼間、夜間問わずICU室に常勤の医師がいなくてはいけません。このあたりもまだ厳しい面もあり、それが可能になるようでしたらICUも含めまして210床という形になります。

NICUにつきましては、非常に需要の高い大事なことですけれども、まだ小児科の常勤医師が確保されておられませんので、そちらのほうも力を入れまして、確保したらまたそういう方向に展開していけたらと考えております。

【佐野会員】 52床は、大体何科で使うのか、例えば、整形外科で何床、循環器内科で何床ということはどうでしょうか。

【事務局(指定管理者)】 これにつきましては、協議している最中でありまして、当然、患者数によりまして割り振りすることになります。まだ煮詰まっておらないところもありますけれども、秋口に向けてはオープンする。それまでに、その病床数をどこに割り振るかというのを検討していきます。当然オープンまでには決めますが、現在のところ、まだ決まっていない状況です。

【小紫会長】 基本的には、資料の1ページ目の病床数の一番左に、病床数210床の内訳というのがあります。これは当初の病院事業計画の数字です。まず、これを基

本にしながら、状況を見ながら決めていくことになるかと思いますが、一つの目安にはなるかと思います。

それでは、1 ページ目の診療科目と病床数についてはよろしいでしょうか。
では、堀川会員。

【堀川会員】 平成29年度の事業計画書の医療提供計画では、平成30年3月31日、実稼働可能病床数が210床、小児科5床、産婦人科20床、内科87床、外科系91床、HCU7床とあります。内訳は、平成29年3月の小児科4床を5床に、産婦人科18床を20床に、内科76床を87床に、外科48床を91床に、HCUを7床に増やす、それで210床とありますね。それがどういう過程でされるのかということはいかがでしょうか。

【事務局(指定管理者)】 これは今年度の3月31日の最終的な計画でございますので、医師の確保、その状況に向けて変化していくという形になります。とりあえず、これは29年3月現在もこういう稼働になっていますけれども、それを1年かけてこういう計画に向けていくということです。これは、患者数によりまして割り振りしますけれども、これはあくまで内科系、外科系ですので、その内科系の診療科と外科系の診療科という形で分けて細かく病床を区分していきたいと思います。

【堀川会員】 目標を掲げておられますが、どういうプロセスでされとお考えになっているのか。現実にはこういうようなプロセスを踏む計画が、あるのかないのか、あるいは希望的観測であるのかという点についてはいかがですか。

【事務局(市)】 各科の患者数については、これは希望的な観測になります。実際、患者様は、その時期その日によって、いろんな科の変動があるわけです。例えば、内科の患者様が多いときとか、整形の患者様が多いときとかありますので、そこは内科何人と決めても、必ずしも内科の患者様が入院されるわけではなくて、混合病棟ということで利用しますので、この個々の診療科目別の入院患者数というのはあくまでも一つの設定だと思っていただけたらと思います。ただ、全体の人数、全体の入院患者数については、こういう形で全体の人数は確保していきたいです。それに合わせて看護師とか、それからいろんな医療従事者の体制も整えていかないとはいけませんので、全体の人数が大きな計画になっているというふうに理解していただいて、個々の診療科目のベッド数については、かなり幅があるというように見ていただけたらいいと思います。

【小紫会長】 よろしいでしょうか。続きまして、2 ページ目の人員体制のところにつきまして、ご意見ございませんでしょうか。

はい、藤堂会員お願いします。

【藤堂会員】 充実してきている部分もあるというのは十分ご説明をお伺いしました。先ほどの1 ページ目の最後のところでも、HCUを稼働させるためには常勤医師が必要であるということがあり、常勤医師がいない脳神経外科等々で、今後、医師の確保が必要であるというのが複数の箇所で課題として記載されていますので、いろんな面で医師確保等にご努力されていると思いますが、確保できる見通しとかいうものはお持ちなのかどうか。なかなか全国的に医師不足のところがあって大変ですが、病院の

診療内容を充実させるためには一番重要な点かなと思いますので、その辺の見通しについてお聞かせいただければと思います。

【小紫会長】 今年度に入っての少し動きも含めて、副会長からお願いします。

【今村副会長】 藤堂会員が言われるとおり、医師確保というのは大きな課題だと思っています。全国的に見ても、公立病院でも医師確保がうまくいかないために病院を閉鎖したり縮小したりするところもあります。幸いなことに生駒市立病院は地理的にも環境的にも恵まれていますので、そういう意味では比較的医者が集まりやすい地域だとは思っています。しかしながら、募集したらすぐ来てくれるという状況では残念ながらありません。ですから、例えば来年になったら来ようかとか、来年の4月になって気が変わったら来ようかというような方もあり、その時期が来てみるまで本当に来てくれるかどうかわからないですが、そういう方を含めて数名交渉しています。そういう状況ですので、今、何名交渉しているとか、将来何名入るとかというのはなかなか答えにくい状況です。とにかく、出来ることはして、近々でなくても、将来に備えて医師を確保しようと思っています。

【小紫会長】 他にございますか。では、成田会員。

【成田会員】 看護師についても同じように、例えばフルオープンのときに合わせて採用するのか、そうではなくて徐々に増やしていこうとされているのか。また、医師の確保とか看護師の確保で、市のほうでサポートできると考えられているところは、ありますでしょうか。

【今村副会長】 徐々に集めていかないと、オープンしたからすぐ集まるというわけではないので、現在も看護師長さんが次の病棟オープンに向けて看護師を徐々に増やしていった状況です。医師、看護師、その他の職種の人を集めるのには我々苦労しているのですが、市のほうからもいろいろサポートしていただけるとありがたいと思っています。

【小紫会長】 市としてのサポートについては、どうですか。

【事務局(市)】 採用につきましては指定管理者でしていただくこととなりますが、市としましては、ホームページでの広報活動や市の広報紙、そこでサポートはしていきたいと考えています。

【小紫会長】 他にこの人員体制の部分で、ご質問、ご意見等、よろしいですか。
では、先に進みたいと思います。

3 ページ目、患者数につきまして、ご意見等ございませんでしょうか。

それでは、次の4 ページ、新病院のコンセプトに基づいて、1 つ目の質の高い医療の提供という部分につきまして、何かご質問等ございますか。

では、佐野会員お願いします。

【佐野会員】 病院の総合受付は、看護師の看護部長や看護師長等が、どの科にかかるのか案内するような受付となっているのでしょうか。

【事務局(指定管理者)】 看護職ではございませんけれども、総合案内という形で職員を1名配置しております。大きな病院では患者様が、どういうところに行けばいいか、自分は何科にかかったらいいかというのがわからないということがあると思いますが、当院の受付は、総合受付という形になっており、そちらで診療科に割り振るという形にしております。また、行き先がわからない患者様につきましては、総合案内の職員が、誘導するという形をとっております。

【佐野会員】 例えば皮膚科にかかったらいいのか、泌尿器科にかかったらいいのかとか、いろいろありますよね。看護職でない方だと、きちんとそういう場所に行けるのかなというように思いますが、そこら辺は大丈夫でしょうか。

【事務局(指定管理者)】 受付が総合案内ということで1ヶ所にまとまっておりますので、そちらで対応しています。外来につきましては、一時的には事務職員が受けますが、案内し、看護師に引き継ぎまして、看護師が事情を聞いて分けるという形をとっています。

【佐野会員】 1つの案ですが、西奈良中央病院では、看護部長さんのような方と看護師2人の3人ぐらいで、いろいろお話を聞かれて患者さんを誘導されていたので、何かそういう形をとられたらいいのかなと思ったりします。そのほうが聞いてもらえているということで納得されるのではないかと思います。またご検討ください。

【事務局(指定管理者)】 十分検討させていただきたいと思います。ありがとうございます。

【小紫会長】 ありがとうございます。その他にこの4ページに関して、何かございますか。

では藤堂会員、お願いします。

【藤堂会員】 平成28年度は患者アンケートを実施できなかったと記載されていますけれども、実施できなかった理由はどういうものかということと、患者アンケートというのはどういう内容のものか教えていただけませんか。

【事務局(指定管理者)】 患者アンケートは、グループの中でそれぞれの病院の評価をしているわけですが、アンケートが病院によってまちまちという形では評価ができないということで、グループ全体で同じ内容で、入院患者、外来患者に分けてアンケートをとっております。従来は、年に2回の実施でしたが、昨年度はグループの指示で、全体のアンケートがありませんでした。今年度は既に実施しております。

内容につきましては、医師の対応、看護師の対応、話し方、診療内容、それと事務の受付、コメディカル、検査技師、薬局の接遇。また施設面に関してのアンケート、そういったものを多岐にわたってアンケートを実施しております。これは全国で統一した評価という形で実施しております。

【藤堂会員】 平成28年度の事業に対する評価ということなので少し外れるかもしれませんが、今年度実施されたアンケートについては、どういう形で集計されて公

表されるのかという点について、お聞かせいただけますか。

【事務局(指定管理者)】 今年度のアンケートにつきましては、全国の病院全ての数が多いということと統一性を図るということで、業者に委託して、1ヶ所でアンケート集計をしている最中です。これにつきましては、結果がわかり次第、ホームページまたは院内の掲示という形で報告させていただこうと思っております。

【小紫会長】 他にございますか。

それでは5ページ目、医療における安全管理に対する取組につきまして、何かございますか。よろしいでしょうか。

それでは、6ページ目から7ページの地域完結型の医療体制構築への寄与につきまして、何かご意見ございましたらよろしくお願いいたします。いかがでしょうか。

では、成田会員をお願いします。

【成田会員】 6ページのところの開放型病床ですが、どうやったら利用できるのか、山上会員、よろしければ教えていただけますか。

以前に、もしこちらの病院であいているのであれば使えるのではないかという話をされていたと思いますので、その開放型病床のニーズがあるのかと、どうすれば使えるというように考えられるのでしょうか。

【山上会員】 やはり病院勤務の主治医の医師と、それまで地域で診ていた開業医の医師が一緒に診るというのは、患者さんにとっても安心感を与えるので、非常に良いことです。私が以前に勤務していた病院でもそういうのがありましたが、なかなかディスカッションしたり、お互いの時間を合わせたりと難しいです。これからICTとかが普及してくれば、そういうコミュニケーションもとりやすくなるので実用化するかもしれませんが、現段階では、利用するかどうかはわからないところです。ニーズがそんなに高いとは言えないのではないかと私は思います。

【小紫会長】 課題がまだまだあるという感じですね。

この開放型病床の話もそうですし、他に6ページ、7ページ目で何かございますか。はい、藤堂会員どうぞ。

【藤堂会員】 私も山上会員にお伺いしたいのですが、以前、地域の病院から患者さんをご紹介された際に、なかなか市立病院からのフィードバックがないケースがあったというようなことを以前の会議でおっしゃっていたと思うのですが、その後、生駒市立病院へ紹介された患者さんが良くなられてまた地域へ帰ってこられるというようなサイクルが以前よりはうまくいっているように思われますか。まだ課題があると思われますか。

【山上会員】 確かに、地域の医療機関、市内の病院への逆紹介というか、返された率は上がっているということで、良くなっているのかもしれませんが。あと、対応については、多分どの病院でもそうかもしれませんが、個々の医師のパーソナリティーによるところもあるので、その辺はケース・バイ・ケースかなと思います。

【小紫会長】 それでは、6ページ、7ページはよろしいでしょうか。ないようです

ので、救急医療の充実につきまして、８ページ目、９ページ目の内容に何かございますか。

はい、山上会員。

【山上会員】 救急医療のことですが、私は、メディカルセンターの当直にたまに行っており、二次の医療機関として市立病院には非常にたくさん受けていただいているという報告を見まして、非常にありがたく思っています。それだけ受けられるということは、当直はやはり常勤医師がほとんどされているのでしょうか、それとも非常勤の医師の力を借りておられるのでしょうか。

【今村副会長】 当初は非常勤医師が多かったのですが、最近は常勤医師のほうが多くなっています。常勤医師で賄えるようにしたいと思っていますが、まだ完全ではありません。

【山上会員】 次に、救急搬送ですが、前に聞いたかもしれませんが、８ページの救急搬送状況というのは、市内での救急搬送の７１．５％を受けているということですね。平成２６年度も７０％ぐらいだったとすれば、単に他の病院の救急患者が市立病院に移ったというだけかと思ったのですが、そうではないのですか。市内搬送はもうちょっと低かったですか。

【事務局(市)】 平成２６年度につきましては、市内救急患者の市内病院受入率が全時間帯で６１．５％、これが市立病院開院後の平成２７年度は７２％にアップしております。当直時間帯につきましても５４．６％から６９．２％ということでございます。

【山上会員】 非常に伸びているということですね。

【小紫会長】 他に、８ページ、９ページで何かありますでしょうか。
では、成田会員お願いします。

【成田会員】 この８ページに記載している消防本部救急隊との意見交換会で出たいいろいろな意見をオープンにさせていただいて、他の医療機関でも参考になるところは参考にされたら良いのではないかと思いますのですが。

【小紫会長】 消防本部と病院との意見交換会の内容が、例えば他の病院も普遍的に共有ができるものなのか、例えば病院によって異なるものなのかによろしいと思います。実際、具体的な内容で、もちろんある程度他の病院にも反映できるようなことであれば、そちらにも応用すればいいと思いますけれども、おそらく相当細かい、この病院でどうするみたいな話のような気がします。

【事務局(市)】 市内の搬送率とか生駒市立病院への搬送率、それから転院搬送の状況、収容件数、拒否の理由の内訳とか応需率などにつきまして、市立病院が救急搬送の件数的にこういう傾向にあるというデータ等を用いて、例えば、問い合わせの応答時間とかが一定長い件数があれば、どういう理由によるものかというようなことを情報共有し合いながら、それではこういうように改善していきましようということを、

市立病院と生駒市消防本部の救急隊との現場の職員間で行っております。他の医療機関と情報共有できる部分もあるかと思いますが、市立病院に関するデータがありますので、オープン化するということにつきましては、一定、検討を踏まえた上で、どうするかということを決めさせていただく必要があるかと思います。

【小紫会長】 これは消防本部に聞いたほうがいいと思いますが、いずれにしても、よりスムーズな受け入れとか救急対応が、病院と消防隊員の間で、できるというようなことがあれば、それも含めてきちっとやっていきたいというように思います。

他に、8、9ページ、よろしいですか。

それでは10ページ目の1つ目、小児医療の充実について、何かございますか。

では、前野会員お願いします。

【前野会員】 質問と意見です。小児医療の平成28年度事業報告で、常勤医師の確保を目指したが退職となったとなっておりますが、何ヶ月間勤務されたのかお伺いできますか。

次に、意見になりますが、先ほど4ページで分娩数が2倍ぐらい増えているということでしたので、もう少し長期的な展望で、ぜひ常勤の小児科医師の確保に力を入れていただけるとうれしいと思います。

【事務局(指定管理者)】 小児科の先生は1年間いらっしゃったと思いますが、1人ではなかなか救急は受け入れがたいなどの理由で退職されました。この点についてはまた長期的な展望に立って、院長が産婦人科ですので、院長を中心にしながら、また拡大・拡張していきたいと考えております。

【小紫会長】 ありがとうございます。それでは、小児医療のところはよろしいでしょうか。

2つ目のところの災害時医療の確保、ここにつきまして、何かご意見ございますか。

では、佐野会員お願いします。

【佐野会員】 非常電源であるとか、自家発電についてですが、もし電気が届かなくなった場合にどのぐらい電源がもつのかなどについて教えていただけますか。

【事務局(市)】 災害時対応でございますけれども、市立病院につきましては、建物自身が免震構造ということで大規模な地震にも対応でき、自家発電装置を設置しております、3日間の発電が可能となっております。また、ガスコージェネレーションも設置しております。

病院前に通っているガス管は、中圧ガス管であり、低圧ガス管と比較して、災害時には非常に耐震性が強く、ガスの受給確保も確保できるものと想定しております。

水につきましては貯水槽が160m³ありまして、ある程度の期間は対応できます。もし仮にライフラインが途絶えて水道の引き込みができない場合には、敷地横にあります生駒市水道事業の井戸から引き込み、井戸水を浄化のうえ、使用します。あとは、備蓄倉庫がございまして、飲料水、食糧といったものの備蓄をしております。

【小紫会長】 災害時医療の確保はよろしいでしょうか。

10ページ目の最後の予防医療の啓発につきまして、ご意見等ございますか。

それでは、11ページ目の市民参加による運営につきまして、何かご意見等ございますか。

では、成田会員どうぞ。

【成田会員】 市立病院を受けた患者さんから良かったという話をよく聞くのですが、ご意見箱とかで、良かったみたいな話は入っていたりしますか。

【事務局(指定管理者)】 ご意見箱の意見は、良かったという話もたくさんあります。例えば、接遇、看護師が良かったとか、入院していたら良くしていただいたとかになります。

【小紫会長】 よろしいですか。

それでは最後に、その下の環境に配慮した運営の部分につきまして、ご意見ございますか。

ないということですので、何か言い忘れたとか、全体的な話があればお聞かせください。

それでは、成田会員どうぞ。

【成田会員】 医師の確保につきまして、常勤医師数が増えることが一番重要かと思いますが、できるだけ同じ医師が長くこの病院にいてくださることが、患者としては、いつも前から掛かっている医師がいて相談に乗ってくださるというのが一番信頼できる部分にも繋がるかなと思います。ただ単に、数で常勤医師が1名いますとか2名いますではなくて、医師が継続して市立病院で医療に当たってくださるような体制をとってくださることをお願いしたいと思います。

【小紫会長】 ありがとうございます。では、井上会員お願いします。

【井上会員】 平成28年度の問題というより、今後の予定の問題ですけれども、財政のことで少しお尋ねできますか。増床に関してその根拠がよくわからない部分があって、66床増やして増収を図れる見込みがあるのかどうかということです。要するに、医師数、患者数、それからベッド数で計算する限りは、60床余りを増やす根拠というのが全然見えてこない。増収の見込みがあるのであればわかるのですが、その辺はどうでしょうか。

【小紫会長】 これは平成29年度の事業計画書に関係してくるのかもしれませんが、ご質問いただいたので、平成29年度の事業計画書の内容について、少しご説明いただけますか。

【事務局(指定管理者)】 平成29年度の4月、5月、6月は、予想よりも患者数が非常に伸びまして、例えば5月は平成28年度の1日平均入院患者数が79.2名でしたが、今年度は114名。それと6月は、平成28年度は70.6名の1日平均入院患者数に対して今年度は125.3名というように伸びております。これはあくまで1日平均であり、日にちによっては146床の中の140床ぐらいまで患者さんが入っています。

【井上会員】 稼働率でいったら、まだ60%を超えてないですね。

【事務局(指定管理者)】 現在超えております。210床でなく、146床で計算しますので、稼働率は、平成29年度の3カ月でいきますと80%を超えております。

【井上会員】 医師数の問題がいろいろディスカッションされましたが、全国の医師の平均というのが出ていまして、大体200床の病院で入院患者数100人に対して医師数が平均12名ぐらいですね。急性期とか慢性期とか全部平均して。それから計算しますと、市立病院の常勤の必要な医師数は24名という計算になります。そこで、14名の常勤医師で210床というのはちょっと厳しいのではないかなと思うのです。残りを非常勤でというのは、常識的には考えにくいと感じるのですが、いかがでしょうか。

【事務局(指定管理者)】 現在、医師は常勤で18名おります。今後また入職も考えられますし、当然、法定の医師数というのはクリアしておりますので、十分対応できると考えております。

【井上会員】 増床される目的がはっきり見えてこないと感じていまして、その計画はわかりましたが、何で増床しなくてはいけないのか。例えば、210床の稼働許可をもらって、何年以内にフルにしなくてはいけないとか、そういうのはあるのですか。2年の経緯の中で、あと半年とか1年とかいう形で見ながらやっていかないと、収支のマイナスが大きくなっていくように思うのですが。

【小紫会長】 今日、報告したのは平成28年度の数字なので、医師数も計画に比べて低いというのがありましたが、平成29年度に入ってから常勤の医師もかなり増えてきています。また、非常勤医師を含めて常勤換算すると23.57名まで6月末までは増えていますので、かなり医療体制も人員体制も充実をし始めているということがあります。

あと、いつまでにというのはありませんが、一つの目安としては、指定管理者負担金をいただく平成31年度になるのかなというのがあります。病院の運営収支等も含めて、しっかりと一番初めの病院事業計画にある体制に近づけて本格的に軌道に乗せていくというのが一つの時期的な目安だというように思っております。

【井上会員】 病院の運営に関して非常に努力されて、この2年間でどんどん良くなっています。具体的には、大事なものは医療安全の面とか、それから感染対策とか、そういう面では非常にきちっとされるようになってきていて、いい病院になってきているという印象はあるのですが、運営で増床という点がちょっと納得できないなと感じています。

【今村副会長】 地域のいろいろな需要に応えるためには、全体的に見ると、140床とか150床というのは病院の規模としては小さ過ぎます。もともと我々も300床ぐらいの病院を目指しておりました。でないと、例えば今要望がありましたNICUをつくるとか、それから産婦人科を充実させるにしても、NICUを充実することによって産科が充実する、産科が充実することによってNICUがまた確保できるというものもあるのですが、そうすると、ある程度の規模がないとなかなかそういうよう

な状態にならないと思います。また細かいことを言いますと、CT1台においても、その稼働率を上げるためには、やはり入院患者数がある程度多くないと機械の利用率というのが減るわけですね。そうすると、当然、経営的にもそれが圧迫してきます。何よりも地域医療を充実させるということで、もう少し充実した医療機関にするためには規模的にやはり最低210床は必要だということで、地域の需要を見ながらそこに最終的には持っていきたいと思っております。

【小紫会長】 他にご意見ございますか。

では、堀川会員どうぞ。

【堀川会員】 患者が安心して通える病院になっていなかったら、患者は来ないと思います。そのためにはどうするかということを、まず考えていただいて、当然、医師も充実させてもらわないと。診療科目をたくさん増やされるよりも、「これに関してはここの市立病院行ったら安心よ」というようなところを確立していただく。それから、「雰囲気も明るくて質問もしやすいよ」、「地域のお医者さんとの連携もしているよ」、あるいは「セカンドオピニオンのところへも紹介もしていただけるよ」というようなところを、一番充実させていただかないと、患者さんは来られないと思うのです。その辺のところをどうように考えているのか。あんまりよく伝わってこないように思えます。

【小紫会長】 ありがとうございます。この市立病院管理運営協議会が、こういう事業計画の審議とか、毎年のそういうフォローアップがあるので、数字的な押さえの部分というのはやっぱり要と思うのです。事業計画のフォローアップなので。

ただおっしゃるように、まさに一人の患者の方が来院されたときに、おっしゃったような、何か雰囲気がもうちょっとこうやって明るい雰囲気のほうがいいのと違うとか、病院の待ち時間がどうか、要は、この病院を使ったときに、使いやすいとかそういうような利用者側の視点からのご意見をいただくのがまさにこの管理運営協議会です。

なので、患者の目線に立って、今おっしゃったように、まさに患者目線でこういうところがちょっと気になるからこういうふうにはできないのかとか、この辺はどう考えているのかというご意見を、ここでいただくのがまさに協議会の場だと思うので、次回でもいいですし、もし今特にこういうところが気になっているとかということがありましたら、ご質問いただければと思います。

【堀川会員】 ホームドクターというのですか、自分が掛かっている医師から紹介していただく、あるいはここに来たときにこういうような状態だから、今度ホームドクターのところに行きなさいという、要するに地域医療との関連というのを一番密にさせていただくということが一番大事だと思うのです。先ほどありました逆紹介率というのですか、そういうのを高めていただいて、できればやっぱり100%ぐらいにさせていただくほうがありがたいと。その辺のところを一番まずしていただきたいというように思います。ホームドクターを信頼しているわけですから、質問しやすい、明確に返答をいただける、そういうような形でないと、患者というのはなかなかホームドクターのところへ行きにくいと思いますので、そういうようなところをしていただきたいなと思います。

【小紫会長】 逆紹介のお話は、前回、井上会員からも御指摘いただいて、たしか平成29年度の計画では少し数字を高めてしっかりやりますという方向でということになっていると思います。

しっかりとそこもやっていくというのが地域医療連携の観点からも大切なことだと思います。平成29年度は、少なくとも平成28年度よりも高い数字を逆紹介も出していきたいということで計画には位置づけているところだと思っています。

ホームドクターの話のみならず、また患者の目線からいろいろと接遇的な話であるとか、先ほどもご意見箱の話がありましたが、たしか第1回目の協議会でそのような意見があって、それをきちんと回答をつけて掲示したり、ホームページで出したり、とかというような形で改善をしたと思いますので、そういうご意見もあわせて、いろいろこの場でもご意見をいただければ結構かと思います。

【今村副会長】 この場では経営的なこともかなり議論していますが、病院の運営の方針としては、市民の皆様の健康を守るための医療というのを第一にしています。あくまでも市民の健康、医療を守ることがこの病院の使命であって、それをきっちりすることによって経営的なものもついてくると。だから、医師は、地域の患者さんの目線に立って患者さんの要望にきちっと応える、そのこと自体が一番大切なことで、それを守るようにしてくれと言っています。ここで議論していると、何か数字のことが第一みたいですが、決してそうではありません。よろしくお願いします。

【小紫会長】 ありがとうございます。他によろしいですか。それでは、まとめに入りたいと思います。

いろいろご意見、ご質問等いただきましたが、平成28年度の事業計画に対する事業報告といたしましては、本日、修正等のご意見はございませんでしたので、事務局から報告いただいた案を確定版とさせていただきます。

なお、この報告書の確定版につきましては、生駒市の9月議会におきまして報告をさせていただく予定でございます。ご承知おきいただければと思っています。

それでは案件の1つ目、平成28年度の実施状況調査報告書（案）につきましては以上とさせていただきます。

それでは、案件2のその他でございますが、会員の皆様からご意見、ご質問等ございますか。はい、堀川会員、どうぞ。

【堀川会員】 我々自治会でも町内清掃をしていますので、病院においても敷地内の草刈りをきっちりしていただけないでしょうか。ぜひお願いしたいと思います。

【事務局(指定管理者)】 東側になると思うのですが、かなり草が伸びています。シルバー人材センターの方に、年に2回という形でお願いしているのですが、他の現場での作業が立て込んでいますので、お盆明けになる見込みです。しばらくの間ご迷惑をおかけしますが、ご理解いただきたくお願いします。

【小紫会長】 ありがとうございます。こういうやりとりもとても大切なこの協議会の役割だと思います。ここで先ほどのやりとりがあったことを、堀川会員からも自治会の方にお伝えください。

【堀川会員】 もちろん報告します。

【小紫会長】 他にいかがでしょうか。はい、藤堂会員どうぞ。

【藤堂会員】 院内保育所についての記載がこの中にありまして、保育所を設けられるというのはすごくいいことだと思います。夜勤における保育が週2回、火曜日と金曜日とありますが、看護師でお子さんをお持ちの方はどのぐらいいらっしゃるのかわからないですけれども、夜勤は毎日されているはずですので、この2回で調整されていて、十分これで対応出来ているということでしょうか。

【事務局(指定管理者)】 子どもさんがいる看護師は当然多いのですが、シフトの調整をいたしまして、この週2回で補えました。今後、看護師が増えまして、その必要性があればそれに応じて増やしていくことは、当然考えております。

【藤堂会員】 わかりました。

【小紫会長】 ありがとうございます。他にありますでしょうか。
ないようですので、事務局から、次回の連絡等をお願いします。

【事務局】 次回の会議につきましては、11月頃を予定しています。10月になりましたら日程調整をさせていただきますので、よろしくお願いします。

案件につきましては、平成29年度中間報告書(案)について、ご意見をいただくことを予定しております。

【小紫会長】 それでは、本日の案件は全て終了いたしましたので、以上をもちまして生駒市立病院管理運営協議会第6回会議を終了させていただきます。

新しく会員になられた皆様からもたくさんご意見をいただきまして、大変活発な議論だったかと思います。今後も管理運営協議会に引き続きお力を貸していただければと思っております。

それでは、改めまして感謝と今後のお願いを申し上げまして、閉会とさせていただきます。

本日は本当にどうもありがとうございました。

—— 了 ——